岩盤ボーリング柱状図

調査名	砂防指定地内河川　天楽川1号　通常砂防事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（交付金）
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	砂防　構造物基礎

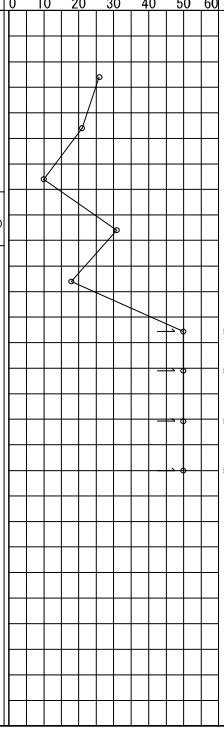
ボーリング名	No.1	調査位置	広島県三次市作木町下作木			北緯	34° 52′ 01.3200″
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	令和4年 4月19日～ 令和4年 4月22日			東経	132° 43′ 15.7500″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	TP 145.93m	角度	180 上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	10° 水平 0° 鉛直 90°
総削孔長	9.00m	使用機種	試錐機	東邦地下工機D-1型			
			エンジン	ヤンマーディゼルNFD-12		ポンプ	東邦地下工機BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日
1	144.43	1.50		砂混り礫	暗褐								φ5～50mm程度の角礫を主体とする。細砂が混じる。	
2	143.93	2.00		玉石・転石	青灰								コア長50～150mmの硬質な玉石で、玉石間に土砂を挟む。	
3				礫質土	暗褐								φ2～30mm角礫が多く混入する。砂は細砂～中砂である。GL-4.65m付近より若干礫数の混入が減少する。	4/21 3.55
4														4/20 4.60
5														
6	140.23	5.70										[0] (100)		
	139.53	6.40		流紋岩	暗褐	w5	h3	D	VI	d	D	[0] (80)	土砂状で、砕くと砂礫状となる。	
7					青灰	w3	h2	C	V	d	CL	3[0] (80)	GL-6.85m付近まではφ5～20mm程度の角礫状となる。以深はφ10～40mm程度の角礫状コアとなる。マトリックスは流失する。孔壁崩壊が激しい。	
8	137.93	8.00							IV	c		5[0] (100)	礫状～岩片状コアとなる。	
9	136.93	9.00											岩心は硬質であるが、斜交キレツが発達している。キレツ面は褐色に変色している。	
10														
11														
12														
13														
14														

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
26	1.15	26 / 300		
	1.45			
21	2.15	21 / 300		
	2.45			
10	3.15	10 / 300		
	3.45			
31	4.15	31 / 300		
	4.45			
18	5.15	18 / 300		
	5.45			
50以上	6.15	50 / 260	260	
	6.41			
50以上	7.00	50 / 100	100	
	7.10			
50以上	8.00	50 / 80	80	
	8.08			
50以上	9.00	貫入不能		

深度－N値図



原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
			1	86/ケーシング	S/MC	1	60	0	W10	0
		4/18	1	66/ケーシング	HW/D1	1	120	0	W24	3
			2		S/打込み	0	0	0	W10	0
			2							
		4/19	2							
		4/20	2							
			1							
			1		HW/DI	1	100	0	W24	3
		4/21	0							
			1							
		4/22								